

SOU-MU NIGHT

実験の場

10月4日（水）
京都信用金庫QUESTION

共催

株式会社でかいうつわ
京都信用金庫
京都市ソーシャルイノベーション研究所（SILK）



京都市の社会課題

スタートアップ企業のバックオフィス人材不足 / 雇用の安定

企業の経営を支える重要な業務を担っているバックオフィスは、人手不足によって担当社員の負担が大きくなるなど、課題を抱えている企業が多い。またバックオフィス業務はまだアナログで行われているものが多く、地域企業が健全な経営を行うにあたり、改善の余地が大きい領域である。

主体企業

株式会社でかいうつわ

（東山区宮川筋四条下る二丁目宮川筋二丁目255番地）

「社会のうつわをでかくする」「会社のうつわをでかくする」をミッションとして創業期や事業承継期の会社の経営支援をする会社。コンサルタントとして経理事務部門のクラウド化を中心とした業務改善はもちろんのこと、バックオフィス担当者等が参加するコミュニティ「SOU-MU部」を主催し、バックオフィス人材へ共感と気づきを提供しながら意識の変革を促す伴走支援を実施しています。

SOU-MU NIGHTとは

「SOU-MU NIGHT」は、バックオフィス人材の活躍につなげるための交流や対話の場です。総務やバックオフィスで働く人たちが社外に目を向け、スキルやノウハウをシェアすることで知見を高め、働きがいや仕事に対するやりがいを感じることができます。

2020年、京都から誕生した
日本最大の総務人材コミュニティ

イベント参加
約700名

※京都、東京、福岡、オンライン開催の延べ人数

Slack参加
613名



SOU-MU NIGHT Tours 2023

- ◆SOU-MU NIGHT SHIBUYA supported by 東急不動産（渋谷）
2023年9月12日 19:00～
- ◆SOU-MU NIGHT FUKUOKA supported by ヌーラボ（福岡）
2023年10月27日 18:00～
- ◆SOU-MU NIGHT TOKYO supported by コクヨ（東京）
2023年11月24日 18:00～



Slackでは様々なナレッジ共有が広がっている

社会実験の内容

金融機関と連携し、 京都のバックオフィス人材を活性化する

- 目標 昨年の未来の祭典から全国開催で展開。今年度は「SOU-MU NIGHT」を京都市でより多くの地域企業にアプローチするため京都信用金庫との共催で開催。



主なアウトプット/アウトカム

SOU-MU NIGHT KYOTO

supported by 京都信用金庫（京都）

2023年10月4日 18:00～



月刊総務 豊田健一氏によるミニセミナーも開催。ドリンクを片手に交流を深めました。



代表者から一言

一緒に考えられる「総務の問い」で交流を深めました。



株式会社でかいうつわ
代表取締役 田中 慎

リニューアルしたQUESTIONの1階で開催し、初めて参加の方が大半でしたが早いタイミングで満席となり、直ぐに交流が深まりました。ドリンクを片手に一緒に考えられる「総務の問い」をテーマにそれぞれに発表をいただき、参加者は登壇者やゲストの話に耳を傾け、対話を深めていきました。お越しいただいた多くの方にマイクを握ってもらい、みんなでつくりあげている雰囲気がとても印象的でした。これからも総務人材が外に出て見識を広げる機会をまた広げていきます。

参加：39名

*生まれた問いの例

- ・総務って何してるの？に対抗する一言を考えてください。
- ・あなたの考える総務の役割って何ですか？一言でどうぞ！
- ・三年後どんな総務になりたいですか？漢字一文字にまとめてください。
- ・総務でこれが一番学びになった！という出来事や経験は何ですか？
- ・ここだけは譲れない！という仕事での信念を教えてください。
- ・会社の雰囲気を良くしたい！総務としてできることは

CHARITY ANIMAL COOKIE

実験の場

9月15日（金）
京都市動物園

共催

mumokuteki(株式会社ヒューマンフォーラム)
ゴリラランド（正面エントランスショップ）
ミライハウス（東エントランスショップ）
前田展広事務所

就労継続支援B型事業所「ワークセンターHalle!」
就労継続支援B型事業所「テンダーハウス」
はあと・フレンズ・ストア



京都市の社会課題

動物福祉と障害者福祉

障害のある人たちが福祉施設にて手工芸品やパン・クッキー等の手仕事を通じて受け取る「工賃」の水準は、多くの施設で月額1万円から2万円程度にとどまり、その向上が課題であるとされています。

また、京都市の動物園が、市の財政状況を受けR3年4月頃からエサやその購入費の寄付の受け付けをスタートさせ支援が広がっています。

主体企業

mumokuteki

(株式会社ヒューマンフォーラム | 中京区式部町261)

1997年創業。京都寺町の古着屋からスタートし小売雑貨販売事業を全国で展開。従業員数約450名、全国50店舗を展開。mumokutekiは「いくきるをつくる」をコンセプトに日々の暮らしを豊かにするナチュラルなアイテム(ファッション、雑貨、生活雑貨、食品)を取り揃う。2023年より京都市の指定管理の「はあと・フレンズ・プロジェクト推進事業」を受託運営。

主なアウトプット/アウトカム

total : 852枚

卸上代 : 197,514円(税抜)
(9/15納品~10/20納品まで)

寄付、報酬

- イラストを描いた利用者への報酬 : 5,925円(税抜)
- 餌代/動物園(仮) : 5,925円(税抜)
- クッキー制作の施設工賃 : 131,400円(税抜)

社会実験の内容

動物のエサの寄付と障害福祉を目指したクッキーのテスト販売

●目標

京都市の指定管理「はあと・フレンズ・プロジェクト推進事業」を運営することで生まれた福祉施設との関係性と、動物園でのイベント出展を行った際に訪れた園内ショップ店長との出会いから動物福祉と障害者福祉を叶えるクッキー商品の企画構想が生まれた。発案から発売まで1年間をかけて企画を練り、販売店、製造施設等と何度も丁寧なコミュニケーションを取られた。祭典では9月15日を発売日とし1ヶ月のテスト販売を行われた。



イラスト

発売日	テスト販売期間
9/15	9/15~10/20



代表者から一言



mumokuteki事業部 統括
今出 貴裕

予想以上に売れた。次は複数の授産施設で連携した製造体制を目指したい。同スキームで新商品開発も検討中

京都市の授産商品のアンテナショップ「はあと・フレンズ・ストア」を運営することで、授産施設の安定的な売上を生み出す商品開発の重要性を体感しました。商品化にあたっては、味だけでなく、利用者が制作をしやすい硬さや大きさを考慮し、様々な製造工程に工夫を行いました。価格設定も含め動物園内ショップの方々とは具体的なアドバイスをいただき、本当に多くの方々と商品開発をすることができました。量産に向けて複数の施設での製造を行うことや、同じスキームで京都の新しい観光のお土産開発や二条城などの観光スポットのお土産開発などにも検討していきます。

ともつくカフェ

実験の場

9月3日（日）・17日（日）
10月1日（日）・15日（日）
クリエイティブハウスともつく

共催

NPO法人地域共生開発機構ともつく
彼方此方屋（おちこちや）



京都市の社会課題

高齢者の就労的活動

高齢者の就労的活動は、「役割がある形での社会参加」と表現されており、雇用労働と、有償・無償の支え合い活動の中間的な社会参加の仕方である。2023年6月14日、認知症がある人でも尊厳を持って社会の一員として自分らしく生きるための支援や、認知症予防のための施策を定めるための法律「認知症基本法」が制定された。現在、高齢者の就労的活動の実践における企業と福祉の連携が注目されている。

社会実験の内容

地域企業と高齢者福祉の連携のためのオープンハウスイベント

全ての人達が地域社会で力を発揮し、役割を担いながら、生涯現役でいきいきと共生してゆく社会を目指し、高齢者の「就労的活動」の場をつくるために未来の祭典では、彼方此方屋とコラボし、多世代が集まる出入自由のイベントを実施。様々な立場の人たちが集うことで、高齢者と社会とのつながりについての対話と実験を生み出す。



主体企業

NPO法人地域共生開発機構ともつく

(右京区嵯峨観空寺岡崎町15-8)

ともつくは、健康な人ももちろん、障害をもたれている人や高齢者など、全ての人たちが地域社会で力を発揮し、役割を担いながら生涯現役で生き生きと共生してゆくことを支援しています。さらに、個人のWell-beingを高められる「ゆめ」のある環境づくりを多くのつながりの中で模索し、実践の意味や効果を検証（研究）し、継続的に社会的責任を果たすことを目指しています。

①就労的活動の実践



地域の高齢者の方々とともに就労的活動に取り組んでいます

その他の事例)
木箱作り / タオルたたみ / ビーズキッド作成 / シルクスクリーン 他

②受託事業（研究協力等）



経済産業省「認知症共生社会に向けた製品・サービスの効果検証事業」

その他：厚生労働省「令和4年度 老人保健健康増進等事業」/ 日本世代間交流学会 事務局 等

③多世代交流拠点の運営



毎月第1・3日曜はともつくカフェを開催

地域の方々の交流の場となっています。また、様々な季節のイベントや、ものづくりイベントも開催しています。

主なアウトプット/ アウトカム

裂織用の着物資材を納品。関わりの対話を深めた



彼方此方屋から裂織用の着物資材を納品いただき、高齢者の方々の制作スピードに合わせた生産体制を前提に関係性をスタートさせた。また今後、京木綿を育てる取組への関わりについての対話も深めた。

新たな企業とのコラボの議論が広がりました



発酵食品の製造、管理物件の見守り、他

地域循環ワークショップの実験が行われました



株式会社アグティ

2件の登壇の機会が生まれ、経済団体の伴走支援が始まりました



京都商工会議所YEG/ 株式会社でかいつわ

代表者から一言



NPO法人地域共生開発機構ともつく
理事長 河本 歩美

地域企業へのお声の掛け方がわかってきました。

未来の祭典のこの3ヶ月間は、ジェットコースターのような機関でした！ 福祉・医療関係の仕事をしてきているメンバーが中心のNPO法人なので、企業の皆さんとお話することに緊張していました。でも、私たちのプレゼンを聞いていただき、対話を重ねることができたのは有意義な機会となりました。私たちが課題と感じていることと、地域企業の皆さんが持っておられる課題感はほぼ同じであることが分かり、お話が盛り上がることもしばしば。将来、誰もが進む先にある、高齢者像を楽しく夢のあるものにするため、今後も連携していければと思います。まずは、話してみることで

※未来の祭典から広がった関係性

オープンハウスの結果

参加者

160名

*4日程

参加企業

13企業

訪問など

KYOTOVEGAN

実験の場

10月28日（土）
プラントベースド・ゲストハウス「TU CASA」
@東山区

共催
合同会社KYOTOVEGAN
株式会社JTBC京都支社



京都市の社会課題

脱炭素社会における 植物性ライフスタイルの推進

2050年カーボンニュートラルの実現に向けた大幅なCO2削減には、エネルギーシステムだけでなく食システムの脱炭素化が必要であり、消費側の食行動変容も不可欠とされている。世界の食のサプライチェーンに起因する温室効果ガス排出量は全体の約30%程度を占めている。現在、世界的にヴィーガン食など植物性のライフスタイルに注目がなされている。

社会実験の内容

事業者向け「VEGAN勉強会」 のテスト実施

KYOTOVEGAN。未来の祭典では、最新のVEGANの現状を伝えるとともに、店主と話す機会を提供する。企業向け勉強会内容のブラッシュアップとともに、KYOTOVEGANコミュニティへの期待のヒアリング調査を行う。

過去の社会実験

R2年度の地域企業応援会では関係先企業、店舗と連携し、京都のライフスタイルをVEGANで再定義を行った広報誌（タプロイド版）を発行されました。



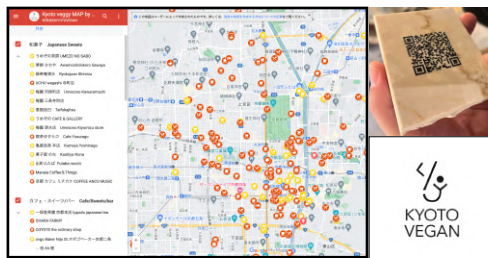
主体企業

合同会社KYOTOVEGAN

(京都市中京区)

京都を舞台に培われてきた文化を新たな視点で捉え直し、脱炭素社会を目指し、精進料理も含めた「菜食（ヴィーガン、ベジタリアン）」という京都らしい行動、選択肢を広げている。R5年度から「脱炭素ライフスタイル京創ミーティング」にも参加

①GOOGLE リストでの広報支援



①ツアーなどの体験プログラムの提供



「KYOTOVEGANKYOTOVEGAN TOUR in 三条会商店街」

*2024年1月からホテルと連携し販売を予定

③コンサルティング / メニュー開発

④経営者向け「メンバーシップ」事業

京都から世界へヴィーガン（植物由来）体験を提供するコミュニティ。*2024年1月からスタート予定

主なアウトプット/ アウトカム

店主、企業向けに「勉強会」を開催しました



SNSで呼びかけし、主にVEGAN対応や事業を考えている店主様を対象に開催。会場は世界から注目されている量り売り、プラントベースド・ゲストハウス「TU CASA」にて開催。KYOTOVEGANへの期待もヒアリングしました。その後のお仕事のご依頼生まれました。

期間中に生まれた実験や広がり

KYOTOVEGANメンバーシップへのご意見を集めた



モニターツアーを実施。SNSを活用し、ガイドメンバーも組織化した



京都商工会議所青年部(京都YEG)のイベントに登壇。業務委託のご依頼がうまれた



代表者から一言



合同会社KYOTOVEGAN
代表 玉木千佐代

植物性ライフスタイルへの関心の高さを感じました

世界中の交通由来よりも畜産由来のCO2が多く排出されることから、菜食を選ぶことも脱炭素への行動のひとつになることが広まり始めました。現在、様々な企業が代替肉などフードテックの進歩とともに、植物性商品を発売し始めています。

今回、未来の祭典を通じ様々な方々とお話しすることができました。皆さんヴィーガンの最前線のお話をすると、大変興味を持っていただき、私もインバウンドでは約4人に1人が菜食を取り入れられる実態を知れ、またヴィーガンとは食だけのカテゴリーで認識されていることを再確認することができました。改めてマップで事業者が繋がることや衣食住遊での植物性ライフスタイルがあることの発信の重要性を感じました。今後も地域企業と共にヴィーガンの価値を広げていきたいと思います。

参加者

7名

受注

1社

内容

1. KYOTOVEGANとは
取組紹介 / 植物性の衣食住の文化 / お店ごとの表現
2. なぜ、ヴィーガンが増えている？
VEGANをはじめの理由 / 新しい世界の市場
3. 脱炭素と「植物性」の関係
5つの理由 / 2050magazine / 京都で広がる機運
4. 「VEGAN対応」のはじめかた
再発見する / 表示と注意点 / 原材料を変換する
5. 顧客体験してみよう
移動する / 食べる / 泊まる
6. 世界や日本の最新トレンド



京都市の社会課題

働く育児女性を取り巻く社会課題

日本において働く女性は年々増加し続けているが、約2人に1人の女性が、出産を機に仕事を退職。仕事と家事・育児のバランスを維持するために、出産時に就業継続を選択できない女性が多くおられます。その解決にあたり多様な働き方に向けた環境の整備、企業における意識改革と理解の促進などの総合的な取組みが進められています。

主な離職理由

- 家事育児により時間を割くために辞めた | 31.7%
- 続けたいが仕事と育児の両立の難しさで辞めた | 28.5%
- 妊娠・出産にともなう体調の変化でやめた | 24.6%

厚生労働省委託事業 令和2年度 仕事と育児等の両立に関する実態把握のための調査研究事業

主体企業

子育てママ支援サークル☆はじめのいっぽ

2011年から左京区を中心に活動し、妊娠、出産で社会と分断された気持ちになる女性を対象に、子育て中のママ達でいたい事に取り組むサークルを運営。年間利用者数約300名。令和5年度京都はぐくみ憲章実践推進者アクション賞を受賞

inote+P

2022年設立。子どもが書いて大人が読む新聞「きょうと子ども新聞」企画を運営し、これまで22回、累計239名が参加するほか。ママのスキルを企業とつなぐ「skillconnect」を子育てママ支援サークル☆はじめのいっぽと共に社会実装中。その他、パパイヤ栽培と商品化プロジェクト、今後の展開としてライフデザインサービス（生活支援サービス）も予定している。2023年度 京都はぐくみ憲章実践推進者アクション賞受賞

主なアウトプット/ アウトカム

プログラム

●スピーチ

レ・フレール・ムトウ
「お互い様の風土とママの戦力化」

株式会社アグティ
「地域社会と企業と人がつながる地域循環ワークショップ」

●グループ交流

京都新聞社
「新聞記事を使った交流ワーク」

企業と地域の人を活かした取組事例をお話いただきました



テーブルで関心のあった記事を話題に交流を深めました



12社が参加 関心の高さがうかがえた



企業とママの交流を深めました。



課題

- ・仕事の案件を見つける手段
- ・コミュニティスペースの確保
- ・マッチングの仕組みやフローの検討
- ・既存コミュニティの連携
- ・事業として存続するための収支計画
- ・周知方法の模索

社会実験の内容

ママと企業の対話イベント

～ 子育て中の人×企業～
新たな「働きかた」の創出

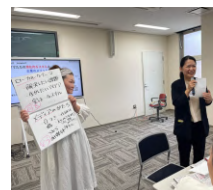
●目標

子育て中のママと、地域企業の担い手不足の解消とつなげる対話型イベント。ママの社会的孤立を解消し、子育てしやすい町づくりを目指します。



代表者から一言

実現して欲しいという期待の声を聞くことができました



実現して欲しいという期待の声を多く聞くことができ、また、今後の課題も明確になり、とても収穫の多い1日となりました。企業が主催ではなく、ママの集まりが主催として開催できたことにとっても意義を感じています。これからも対話の機会を設け、互いを理解し、良いバランス関係を築きながら、地域とつながる仕事の循環の仕組みを生み出していきます。

inote+P | 服部加奈子
子育てママ支援サークル☆はじめのいっぽ | 山崎 知子

子育て中の働き方・ 起業について考える座談会

実験の場

10月11日（水）
ワコール新京都ビル1F

共催

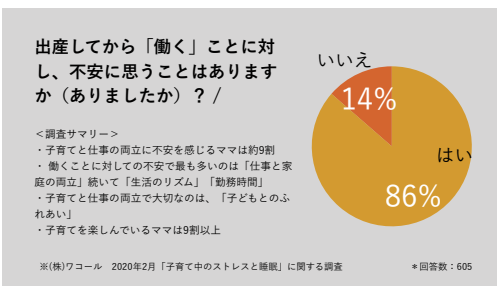
株式会社manicreation
株式会社ウエダ本社



京都市の社会課題

育児・介護と仕事の両立

子どもの育児や親の介護で、仕事を辞めざるを得ない。そんな人は今も相次いでいて、「仕事」との両立は大きな課題となっています。



社会実験の内容

理想の、子育て中の働き方や 起業を考えるイベントを開催

●目標

『理想の、子育て中の働き方や起業を考える』をテーマに座談会を実施。多様な生き方・働き方をしているorこれからしたいと考えている人が集まり、働き方やキャリアの発見や、自分だけじゃないという共感など、正解のない子育ての中で、どのように『自分らしさ』を見つけてイキイキと過ごせるのかじっくり考えるきっかけを作ります。

主体企業

株式会社manicreation

(下京区大坂町387-2 フレール烏丸五条1F)

東京・京都などでネイルサロン『maninail』を6店舗を展開するほか、一般社団法人海外ネイル協会の運営やシニア美容「えがお爪工房」を監修。「100人いれば100通りの働き方」をスタッフに提案できるサービス業を目指して、世界にも目を向けたさまざまな取り組みにチャレンジしている。

株式会社ウエダ本社 utena works

(下京区五条通堺町西入塩竈町363)

OA機器の卸売から始まり「働く環境の総合商社」として、様々な地域企業のいきいきと働ける場を様々な角度からデザインを提供。事業部「utena works」は、さまざまなライフイベントと共に生きる女性に「はたらく」と「いきる」がつながる選択肢を提供し、しなやかで彩り豊かな社会の実現を目指しています。

主なアウトプット/アウトカム

当日の流れ

- ①『maninail』の事例紹介
- ②ウエダ本社utena works事業の事例紹介
- ③座談会～ワールドカフェ形式～

当日の感想

- ・似たような悩みを持つ人、過去に悩んでいた人と情報交換でき、勇気づけられた！
- ・さまざまな人生のフェーズにいらっしゃる方のお話を伺えて、良い機会になった
- ・子供はいないけど、これから何を考えるべきかとても参考になった
- ・今後どのように生きていきたいのか、まずは家庭内でじっくり話し合いたい
- ・日本が抱える少子化問題、経済活性化の改善は、仕事や子育ての悩みを改善することから始まると思った
- ・会社の制度や雰囲気・文化の違いなど、対話の中にたくさんの発見があり、情報交換する場の大切さを感じた

24名参加



ワコール新京都ビル1Fで開催



座談会の様子

主催者の感想



株式会社manicreation
久賀田有紀

全員女性の会社を経営する中で女性のライフステージとの両立は日々課題を感じています。今回のような女性や子育て中の当事者だけでなく、男性や経営層の方も交えての意見交換の場は地域企業だからこそ提供できると感じました。大企業での開催や合同企画を行うことでシナジーが生まれ、更に京都から全国に広げていくことで社会的意義が出てくると思いました。



株式会社ウエダ本社
林葉摘

今回良かった点は、経営者や企業で働く人、起業した人、子育て中のママと色々な属性の人がまじりあって、子育て中の働き方というテーマであつ議論ができたこと。子育てしながら働くことへの関心値や課題感を改めて感じることができました。こういった場を続けていく必要性を感じたことはもちろん、これから事業を進めていくうえでリアルな声を拾う機会になりました。



株式会社ワコール
川嶋慎太郎
*2023年7月～ウエダ本社へ出向中

子育て中の方/一段落した方、子育て中の働き方に興味のある方、経営者、男性…と多様な方々が参加してくれて、また子連れ参加の方々もいて温かい雰囲気で進行できた。今回は“正解のない座談会”として発散や共感、学びや気付きの場として盛り上がった。多様な方々と色々な切り口で“子育て×働く”を考える場を今後も作っていきたい。